



2020.11.8

ニリンソウ自生地保護活動情報

akatsukanironso@gmail.com
発行：都立赤塚公園サービスセンター ボランティア係
03-3938-5715
編集責任：運営サポーター：
木村松夫 090-8646-9757



<11月、12月の活動日程>

- ・ 11/15 手刈りの草刈り
 - ・ 11/22 お休み (11/8 の作業が予定通り行われたため)
 - ・ 11/29 手刈りの草刈り
 - ・ 12/13 手刈りの草刈り (サービスセンター主催の「担い手づくり講座」の受講者受け入れ)
 - ・ 12/20 11/29、12/13 の予備日
- * いずれも日曜日、10:00、大門地区観察台集合
* 雨天は中止です。

11/8の作業

機械刈りの威力に加えて「ひとの力」の偉大さを知る



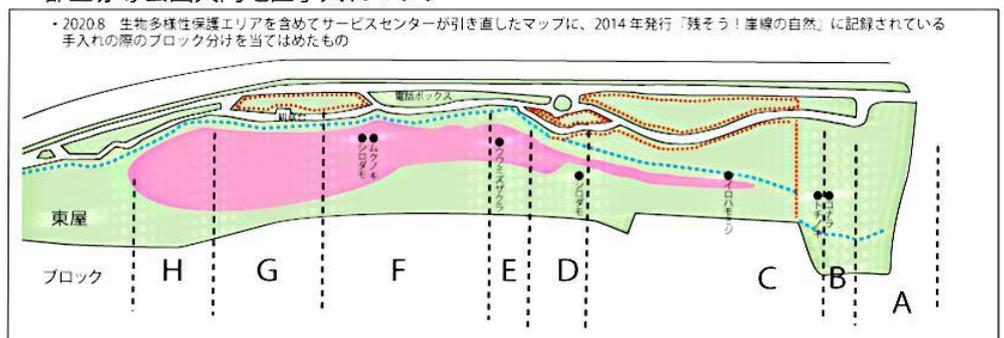
11/8 は大門地区ニリンソウ自生地の本格的な手入れ作業の第2回目でした。

下のマップのB,Cブロックが10/25の作業でほぼ終了した場所ですが、11/8はDからFブロックに向かって作業を開始しました。10/25に続いて赤塚公園サービスセンタースタッフによる機械刈りを試行、手刈り作業では旧保存する会のみなさんの他にみどりの手やモニタリング活動のみなさんも参加、それに、一般参加の方も加わって総勢16名。にぎやかな手入れ活動になりました。

都立公園でのボランティア活動では一部の公園を除いて草刈り機を使った作業が許されていないことと、ニリンソウ自生地のようなたくさんの貴

都立赤塚公園大門地区手入れマップ 2020.11 改定

・ 2020.8 生物多様性保護エリアを含めてサービスセンターが引き直したマップに、2014年発行「残そう！崖線の自然」に記録されている手入れの際のブロック分けを当てはめたもの



重な植物が生きている場所では選択的な草刈りが出来ない機械による草刈りは適さないと考えてきたので、これまでは行われてこなかったのですが、旧保存する会の解散を受けて、サービスセンターのボランティア活動支援策の一環として取り組んだものでした。

2回の試行を経て、野草のほとんどが実を实らせて枯れていく秋のこの時期ならば、きちんとした現場調査と緻密な計画を立てて行うならば機械による作業でもよいのではないかと判断できます。機械刈り導入による効率の上昇は言うまでもありません。

一方、11/8はたくさんのメンバーが集まってくれました。作業開始前に「今日の作業の目的と範囲、注意点」などを説明しながら、お互いにコミュニケーションを交わしながら行う活動は効率性では図ることが出来ないとても重要な要素です。「なぜ、この林を残さなければならないのか?」、それはわたしたち人間の生き方の問題でもあるからです。この日のように、10数名の人々が一か所で一つの目的で活動すると、大きな力になるものだと、「ひとの力」の偉大さを改めて発揮したのも、11/8の作業でした。

この日のトピック① 「冬に咲くニリンソウ」、はやくも開花



この日、機械刈りを行ったDブロックは、一面のニリンソウの広がりの方の東の端にあたる場所で、20年ほど前には秋になると薄いピンク色のミゾソバの花が密生するところでした。台地が乾燥してきた結果だと思いますが、いまではミゾソバは絶滅寸前、今年は開花も観察されませんでした。一方、10年ほど前からは寒冷期の11月の後半にニリンソウの開花が観察されるようになってきました。この日はまだ11月の初旬だというのに1株花を付けていました。一番早い開花観察。

トピック②

ここにもイヌショウマ が生えてきた→

ニリンソウのメインステージといえるFブロックには秋のいちばん遅い時期まで花を

付けているイヌショウマという野草があるのですが、この花はこの数年間、花がきれいに咲き揃わない「不振」が続いています。でも、生育域は拡大していて、Dブロックの崖際で生育しているのを初めて観察しました。



トピック③ 見上げればユリノキが黄葉

←大門地区の平坦部は1974年の開園時に盛り土され造成されたところ。ユリノキもその時に植栽された樹木で「武蔵野の木」ではないのですが、春の花も秋の黄葉も見ごたえがあります。